



委員長メッセージ ～ 2024 年度 公募開始に寄せて ～

今年度も「STI for SDGs」アワードの募集を開始しました。本アワードは、科学技術・イノベーション（STI）がSDGs（持続可能な開発目標）の達成に一層貢献することを目指し、2019年度に創設し、今年で6回目の募集となります。毎年多数のご応募をいただいておりますが、近年は大学生や高校生といった次世代を担う方々が社会課題の解決に真摯に向き合われている内容の応募が増え、非常に頼もしく感じています。昨年度は、受賞までにはいたらなかったものの、初めての小学生による素晴らしい取り組みの応募もありました。

一方で、国連から発表された「持続可能な開発に関するグローバル報告書 2023（GSDR2023）」^{(*)1}でも示されているように、SDGsの進捗は思わしくありません。現在はスポーツでいえばハーフタイムを過ぎたタイミングですが、COVID-19のパンデミックやロシアによるウクライナ侵略、イスラエル・パレスチナ情勢の緊迫化などの影響もあり、進捗が順調なターゲットは全体の15%程度であり、ターゲットの半分近くは不十分、約30%は停滞・後退している状況です。例えば、私たちが暮らす日本では、SDGsという言葉の認知度は9割を超え世界でもトップクラスですが、その内容の理解度や行動の面では残念ながら世界最下位であるという調査結果もあります。私たち自身がSDGsの達成を自分事としてとらえ、危機感を持って社会変革を進めていかなくてはなりません。そして、昨年改訂された政府が定める「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」^{(*)2}にも、科学技術が“SDGs達成の手段として大きな役割を果たしうるものである”と明記されているように、科学技術には社会変革の原動力として大きな期待が寄せられています。

「STI for SDGs」アワードでは、今年度も引き続き、科学技術の力を十分に活用して社会課題を解決する取り組みを募集します。特に次世代を担う若い方々の活動、大学や企業での研究成果を活用した取り組み、市民社会においてさまざまな立場の人々の連携による活動などはもちろん、誰もが希望を持って生きられる持続可能な未来を作るため、皆様からの多様な取り組みのご応募をお待ちしています。

(*)1 国連発行「持続可能な開発に関するグローバル報告書 2023（GSDR2023）」

<https://sdgs.un.org/gsdr/gsdr2023>

(*)2 SDGs推進本部発行「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」（2023年12月19日）

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/kaitei_2023_jp.pdf

2024年4月

「STI for SDGs」アワード選考委員会委員長 蟹江 憲史
(慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授)